

数学科 指導方法の課題分析と授業改善策

	ア 指導方法の課題分析	イ 具体的な授業改善策	ウ 補充的・発展的な学習指導計画
第一学年	<p>○講義的な時間が多く、生徒たちの考える時間や活動する時間の確保が不十分なときがある。</p> <p>○基礎的、基本的な知識、技能が身に付いていない生徒に対する補充ができていない。</p> <p>○家庭学習を促す指導が不十分であり、家庭学習習慣が形成されていない生徒が多い。</p>	<p>○生徒の活動の時間を多く確保するために、問題提示や発問のしかたを工夫する。</p> <p>○学力向上支援講師と連携をとり、授業内の練習の時間や活動の時間のサポートをしてもらう。</p> <p>○宿題等の課題を適切な内容、量で設定して出す。また、自己評価の機会を設けて、自分の課題を明確にできるようにする。</p>	<p>○試験前の質問教室や夏休みの補充教室を開き、基礎的、基本的な知識、技能が身に付いていない生徒の学力向上を図る。</p> <p>○グループワークや教え合いの活動を積極的に取り入れ、生徒の主体的、対話的な活動を増やす。</p>
第二学年	<p>○一人一人を授業に集中させるために、聞く・書く・考える時間を区切り、メリハリのある授業展開にしているが、理解力の差が大きくなってきたことから、集中できなくなっている生徒への指導を、さらに工夫する必要がある。</p> <p>○基礎的な問題、発展的な問題、両面での補充的な問題を入れていく時間的余裕がなくなっている。</p>	<p>○バズ学習やグループ学習など、教え合いの時間を設けたり、机間指導で個別に対応するなど指導の工夫をする。</p> <p>○話し合う時間を設け、自分の考えを表現し、様々な視点から問題に取り組ませていく。</p> <p>○学習テーマによって進度を変えるなどして、活用する問題など発展的な学習に時間をかけられるように工夫する。</p>	<p>○理解が進んでいる生徒とのグループ学習を取り入れたたり、補習を入れたりして、学力向上を図っていく。</p> <p>○章末などで発展的な内容を扱い、グループで解決する活動を取り入れる。</p>
第三学年	<p>○基礎的な知識や技能を身に付けていない生徒に対する個別指導に課題がある。</p> <p>○活用する問題に対して、一つの解法を導くだけで、複数の解法を見つける時間を確保できていない。</p> <p>○ICTの活用など、教材教具が不十分であり、デジタル教科書などを使用することができない。</p>	<p>○個々に指導が必要な生徒については、机間指導を行う場面を増やしたり、互いに教え合う学習が出来る場を確保していく。</p> <p>○柔軟で幅広い考え方ができるように、多方向からの解き方を扱ったり、じっくり考える時間を確保していく。</p> <p>○教具として、プロジェクターを活用するなどしていく。</p>	<p>○特に定期考査前など、質問教室を設け、授業の補充を出来るようにする。</p> <p>○単元の導入や応用問題において、発展的な内容を扱う。また、4人グループ学習や発問の工夫をしていく。</p>